

③新たな作目や品種の特徴を活かした需要拡大

新品種「源生林あしたば」を使ったパウダー商品の開発と販路開拓

八丈島原産の明日葉を改良した新品種の「源生林あしたば」を乾燥、粉碎した「明日葉パウダー」を製造・販売する。更に「明日葉パウダー」を原料とした健康食品や洋菓子等を開発し販路拡大を行う。

➤ 連携体

農林漁業者

(株)おいしませファーム(農業)

耕作放棄地を活用して新品種の「源生林あしたば」を栽培し、耕作放棄地の削減等農業振興に貢献する。

中小企業者

三笠産業(株) (食料品製造業)

生野菜の受入れからパウダー化までを一貫して行う乾燥粉碎工場により、差別化商品として「源生林あしたば」をパウダー化し、それを原料とした健康食品等を開発し販路拡大を行う。

連携参加者

JAあぶらんど萩

原材料を(株)おいしませファームとともに安定的に供給するとともに、栽培技術を確立し地域農業の振興を図る。

サポート機関等

(財)やまぐち産業振興財団、地域活性化支援事務局

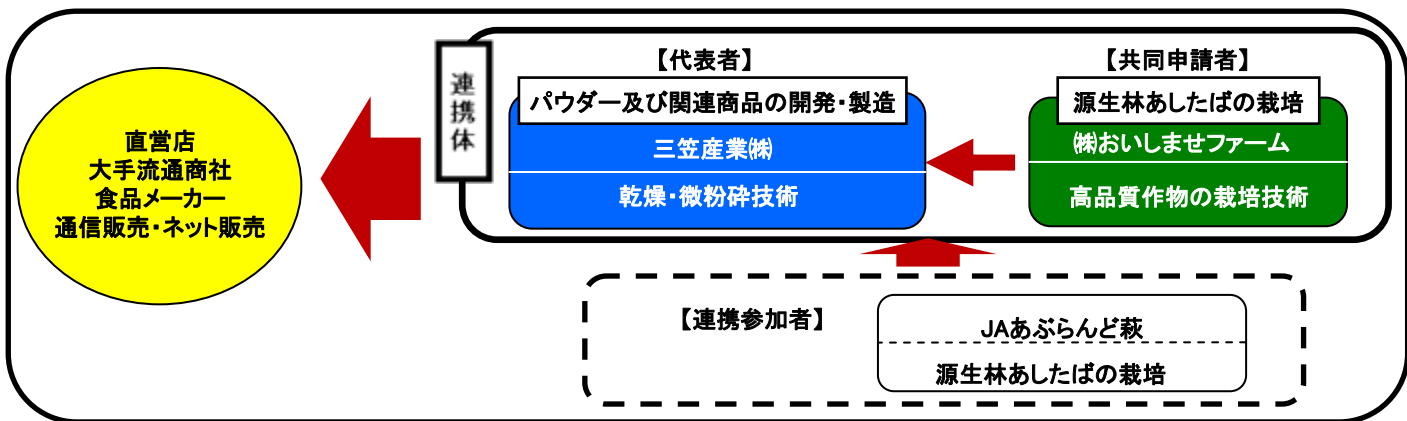
➤ 連携の経緯

農業の振興を考えていた三笠産業(株)は、食材商社との商談の中で「明日葉パウダー」の需要を把握した。そこで、従来から耕作放棄地を活用して農産品の生産を行っていた(株)おいしませファームに新品種「源生林あしたば」の有機栽培を勧めた。三笠産業(株)は「源生林あしたば」を活用して自らの乾燥・微粉碎技術を駆使し、商品開発に取組むこととなった。



➤ 連携に当たっての課題や工夫等

(株)おいしませファームはJAあぶらんど萩と協力して「源生林あしたば」の栽培を進めており、出荷の目処をつけたところである。三笠産業(株)は生野菜の乾燥工程を始めたばかりであり、技術の蓄積を急いでいる。微粉碎技術は従来技術が活用できるため、乾燥技術が確立出来れば「明日葉パウダー」の商品化が可能となる。さらに「明日葉パウダー」を原料とした健康食品や洋菓子の開発にも取り組んでいく予定である。



➤ 連携による効果

農林漁業者

5年で1,000万円の売上高増加、栽培技術の向上、耕作放棄地の活用

契約栽培による安定収入の確保及び新品種への取組による栽培技術の向上、さらには耕作放棄地の活用が期待される。

中小企業者

5年で11,000万円の売上高増加、生産技術の開発と商品の差別化

源生林あしたばをパウダー化するための生産技術の開発と差別化商品の取扱いによる売上高の増加が期待される。

➤ 代表企業等の連絡先

企業名 : 三笠産業株式会社

T E L : 083-973-0731

E - m a i l : takeshige@mikasasangyou.co.jp

所在地 : 山口県山口市小郡下郷811-1

F A X : 083-973-0780

ホームページ : <http://www.mikasasangyou.co.jp/>